



カーナー制度で買った！ 精米機フル稼働！

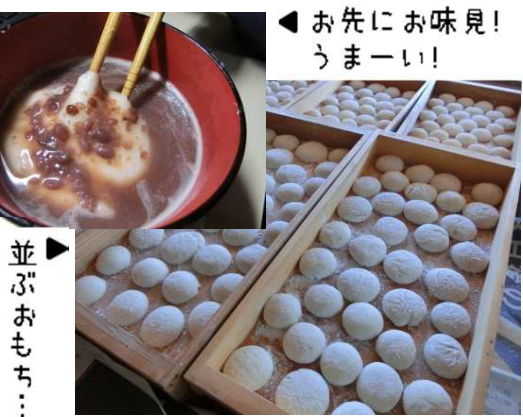
今年度の田んぼのお便りも最終号です。本号では、今年度の収量報告もしますよ！さて、どれくらい穫れたのでしょうか？ではどうぞ！



皆さま、ご無沙汰しております。ここでご報告！昨年末、精米機をいに手に入れました！これも多くのカーナー様のご声援のおかげです！これまでは近くの大規模農家さんに精米をお願いしていたのですが、少量の精米ができないこと、そして、お米が混ざってしまうという問題もあり、念願の精米機でございませう。この精米機でモミから玄米、白米にできます。変わっていく様は非常に楽しい！最近では精米もご家庭でできる時代になりましたが、やはり、精米したては味が違います。それと関係しているのは「呼吸」と「酸化」で（面白

い話なので詳しくはまた別の機会にお話しします）、要は時間が経つとデンプンが分解されるな

どして味が落ちるんです。さて、今回精米したお米はもち米です。というのも、サポートコースの皆様への特産品セットのお品の一品のため。勿論、志多留の田んぼでとれたもち米です。よくしかも、苗は地元です。と作られている「こもち」という品種。まだ余りがありますので応援コースの皆さまもご興味あればぜひお問い合わせください！



先にお味見！
うまーい！

並ぶおもち...
きれーい！

第4号
2016.2



発行元
対馬里山
繋宮塾
0920-85-1755
(事務局MIT)



はぎー先生の

*裏面に紹介あり

ここでは志多留で見られる蛙カエルについてご紹介いたします。皆様はカエルという生き物を思う浮かべた時、どういう記憶があるでしょうか。僕の中の鮮烈な記憶では、少し「ざんこく」なものがありません。それはカエルのおしりから葦（ひよっとした）らスキかも）の茎を差し込んで息を吹き込んだというものです。日々の日常にカエルが在と感じていました。

それはまるで、ホオズキの実を鳴らすような...。次に僕の中でカエルの見方が大きく変わったのは生物について習ったときでした。カエルという生き物は両生類。つまり、古代から水から陸へあがる途上の分類群、水中への依存度が高く、環境の変化に影響を受けやすい生物なのです。今、志多留の田んぼには対馬固有種ツシマアカガエルがわんざかいます。こやつは皮膚呼吸するため、水溶性の化学物質を取り込みやすく、また樹上、葉状生活に適応しておらず、指に吸盤がない生き物です。人間の急激な環境改善、つまり、農薬や、田んぼの水路のつるつるとしたコンクリート化によって影響をうけやすい生き物といえます。幸いにも、穴には不便かもしれませんが、今、志多留の田んぼはこのカエルにとって住みやすい環境となつています。このよ

うな環境が、より広く、長い視点に立った時、誰のどれくらいの意味を持つのか考え続けていきたいと思います。（はぎー）

うな環境が、より広く、長い視点に立った時、誰のどれくらいの意味を持つのか考え続けていきたいと思います。（はぎー）

収量報告

お米作り四年目、平成二七年産のお米の出来栄をこ報告いたします。

やっぱり、植付適期を逃した早米（ゆめつくし）は悪いですねえ。ヒノヒカリは、今年葉の色もよく、穂も十分に垂れて、珍しく地域のおじちゃんたちから「あんたの米は立派ばい」と言われていたので、かなり期待大でした。農水省の発表によると、今年の収量は、全国平均517㍉/反、長崎県平均462㍉/反なので、半分以下ですねえ。無農薬栽培の難しいところですよ。

田んぼによってもバラツキがありました。291.4㍉（100.4㍉）。何が収量の差を生んだのか、来年は検証できるように、いろんな無農薬栽培の工夫を試してみたいと思います。

←天日干した稲から籾を外します（脱穀）



→収穫したお米。今年は部屋いっぱい！期待が持てますか？

種類	収穫量 (kg)	作付面積 (a)	平均収量 (1反あたり)
ゆめつくし	28.2	2.8	100.4
ヒノヒカリ	600.9	25.8	233.1
モチ米	150.3	8.5	177.6

注）収穫量及び収量（1反＝10aあたり収穫量）は、農林水産省の基準に従い、選別後の玄米重量で算出しています。籾摺りをして、小さな米や割れてしまったお米を取り除いた後の玄米重量です。

来年から本格農家！ スタッフ紹介



来年度、私たちは一つの山場を迎えます。というのも、産休のためなんと社長が田植え時期にいません。そして、私しげも学業のため、オーナー制度の事務兼農業から半卒業します。

ですが、安心してください！ちゃんと活動は続きますよ！期待のNew Face!! はぎ一先生をご紹介します。

はじめまして、ハギーと申します。今年度から田んぼやはたけを本格的に始めようと去年からお手伝いをして農業初心者です。これまでは僕は生態学、生き物の数や分布の法則性を解明する学問、を学んでいました。これまでは完全な野生生物が対象でした。農業というものは対してどういうものか？

一般的に、近代では環境を改変し、事もあればその生き物自体をも変えたい。近代的農業と実際に志多留で農業に従事されている方々の間のギャップに「なぜ」、どのように「踏み込んでいく」と思っています。

はじめまして、ハギーと申します。今年度から田んぼやはたけを本格的に始めようと去年からお手伝いをして農業初心者です。これまでは僕は生態学、生き物の数や分布の法則性を解明する学問、を学んでいました。これまでは完全な野生生物が対象でした。農業というものは対してどういうものか？

はぎ一先生をご紹介します。志多留のお米作りもはや四年目。それももう、ニューズレター最終号です。今年、お米だけではなく、地区の皆さんと一緒に、唐辛子栽培にも取り組みました。お年寄りでも負担なく栽培できるもの、ということを取り組んだ唐辛子栽培。ところが、収穫時に腰をかめるのが辛い、という意見が続出。いかにして農地を維持し、集落の誇りを保つか、難しいことにも多いのですが、おかげさまで、川口の田んぼには大勢人が来て、楽しそうにやっとなる」というのは定着してきたようです。皆様のおかげです！そして実は、今春、私も子どもが生まれます！来年は、親子で田んぼレポートできるはず。お楽しみに！

編集後記

ショートコラム

田んぼのお話

突然ですが、皆さん、私たちのオーナー制度では、田んぼの再生をしています。田んぼを守る理由は何だと思いませんか？お米が穫れるのは勿論のこと、水を貯めているので谷間の田んぼはダムのような働きをしたり、いろんな生き物の住処になったり…そして、それを作ってきたのは人の歴史！これってすごいことだと思いませんか？21世紀に入ってから、里山の重要性が日本でも世界でも注目されるようになりましたが、その機能を守るシステムは昔からここに生きる人々の暮らしの中に当たり前存在していました。けれど、その伝統が途絶えつつある今、もう一度その暮らしを、知恵を再発見する必要がありますのだと私たちは思います。ここ志多留から、昔の知恵に今の技術を足して、新たな暮らし作りを目指して！これからもオーナーの皆さまと一緒に考えていければと思います。（しげ）



お問い合わせ

くらしをつくる会社です。



一般社団法人MIT

Tel:0920-85-1755

E-mail:

info@mit.or.jp

